

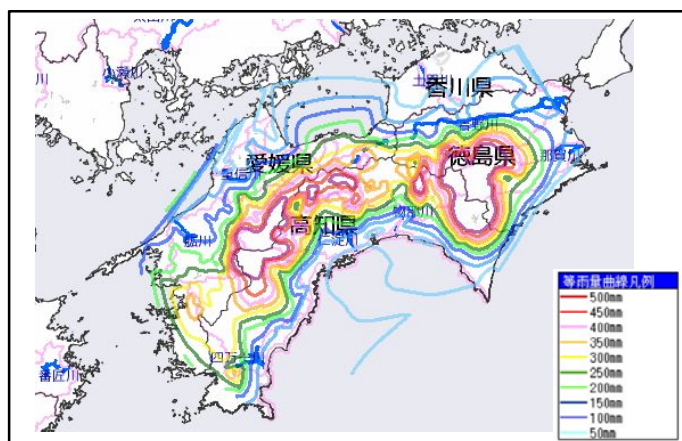
気象の概要（令和4年9月 台風14号）

令和4年9月14日3時に小笠原近海付近で発生した台風14号は、大型の台風となって南西諸島近海上へ北西進し、次第に進路北向きに代え九州を縦断し、9月18日夜から19日には鹿児島県ー熊本県ー福岡県ー山口県に上陸し、また、島根県に再上陸しました。

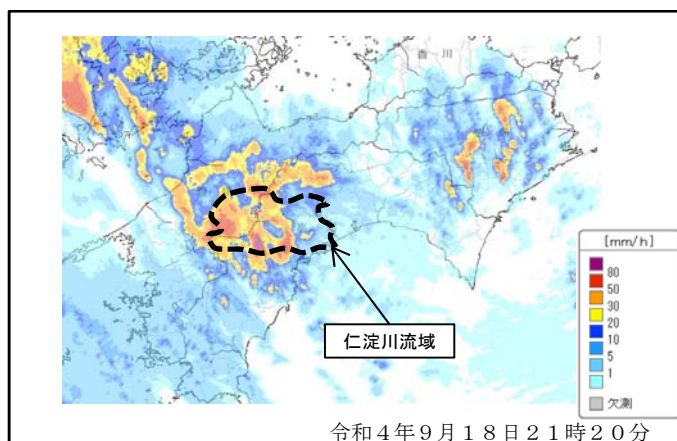
高知県西部の一部が暴風域に 梶原で総雨量500ミリを超えるなど、記録的な大雨となった。大渡ダムの流域平均総降水量は、462mm(速報値)を記録しました。

■台風14号等雨量線図(国交省・気象庁観測地点)

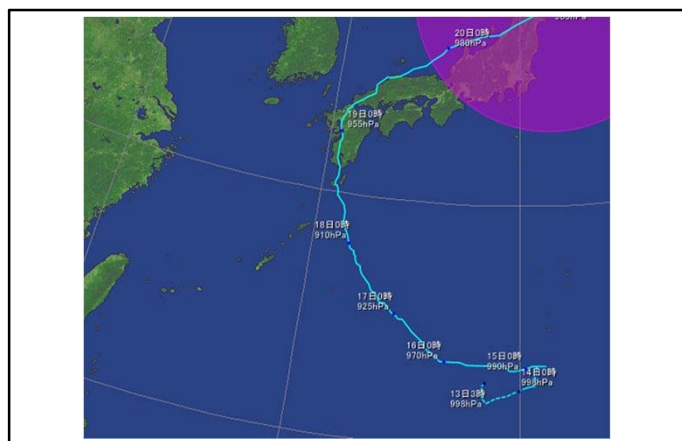
〔総雨量: 令和4年9月17日～令和4年9月19日〕



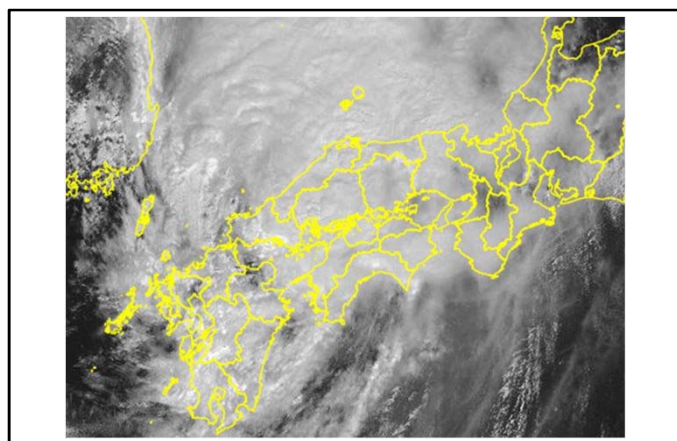
■レーダー雨量画像(出典: 川の防災情報ホームページ)



■台風14号経路図(出典: 気象協会ホームページ)



■気象衛星画像(出典: 気象庁ホームページ)



■代表的な雨量観測所における累加雨量

大渡ダム流域: 御三戸（国交省） 471mm

仁淀川の対応状況（令和4年9月 台風14号）

・大渡ダムでの洪水貯留の状況

大渡ダムでは今年初めての防災操作を実施し、最大で毎秒約510m³の洪水貯留を行った結果、下記の地点で水位低下効果（速報値）が発揮されたものと推定されます。

- 伊野地点（一般国道33号仁淀川橋上流） 約0.2m
- 越知地点（越知町役場裏） 約0.5m
- 森地点（森沈下橋付近） 約0.6m

■大渡ダムの状況

9月20日 12時00分頃の大渡ダム貯水位 約EL185m

（洪水貯留後のダムの状況）



約4,700m³の流木を捕捉することにより、下流への流出を防いだ

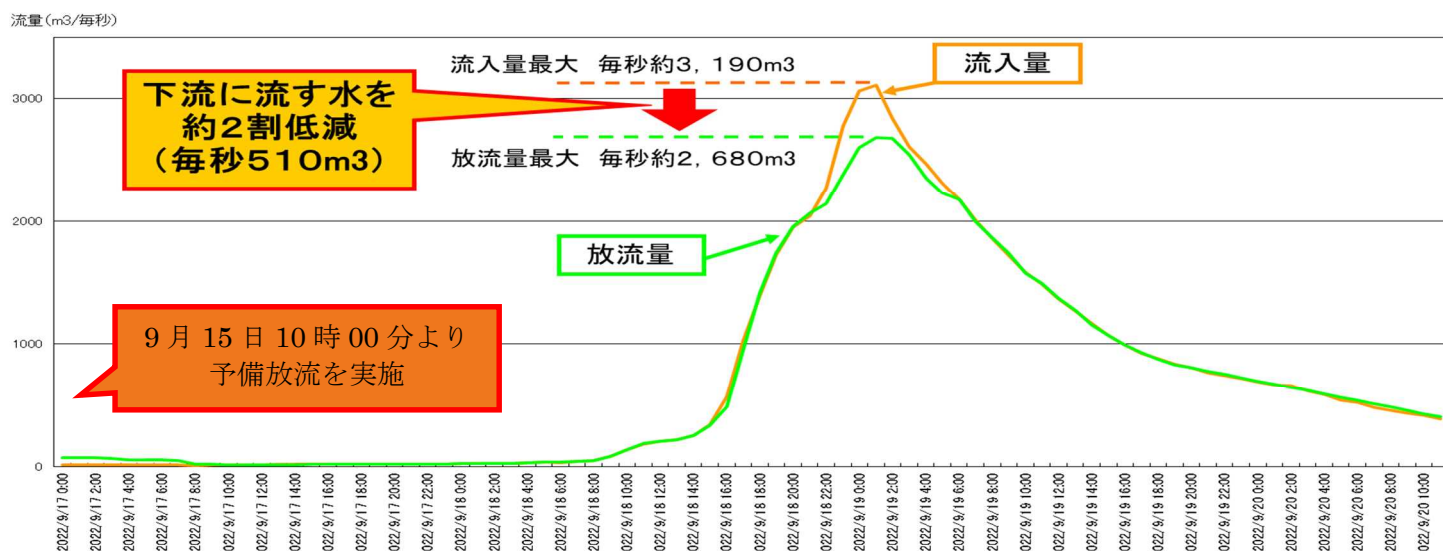
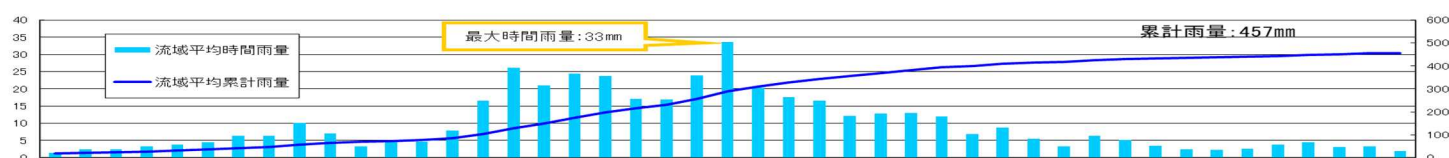
※九州北部豪雨では流木による被害が多く発生したがこれを未然に防ぐことが出来た



9月18日 10時頃の大渡ダム貯水位 約EL177.5m

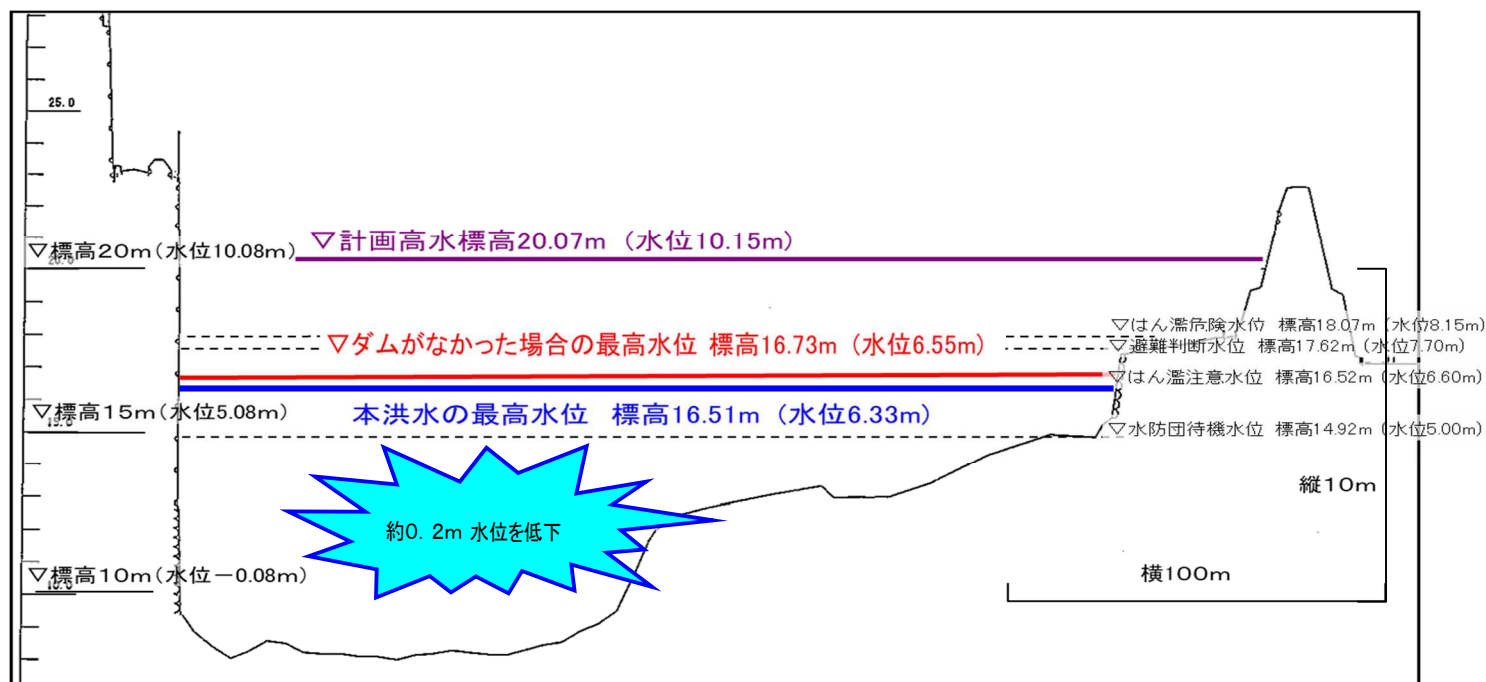
（洪水貯留前のダムの状況）

台風14号における大渡ダム防災操作（洪水貯留）状況

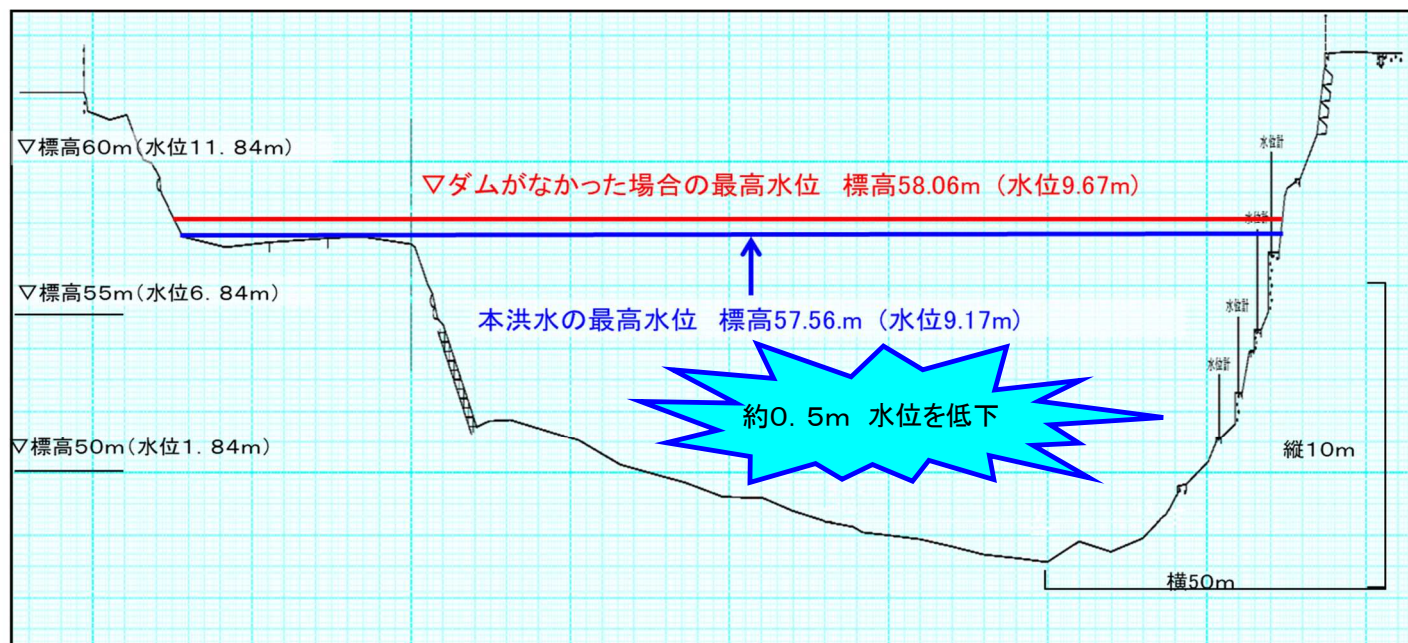


大渡ダムの洪水貯留による効果

■伊野地点における大渡ダムの洪水貯留効果



■越知地点における大渡ダムの洪水貯留効果



※伊野、越知地点の水位低下効果はダムによる洪水貯留が、各地点で発現した場合の推定値です。

標高は東京湾平均海面からの高さを示しています。水位はその地点での水位計の読み値を示しています。